

飛騨農林事務所の普及活動状況

令和3年10月31日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■担い手 次代を担う若手農業者の育成 ～農業大学校2学年生派遣学習支援～

岐阜県農業大学校は2学年生時に卒業後の就農へ向け、約一か月間、地域の農業者の下で栽培等を学ぶ派遣学習を実施している。

飛騨地域は夏派遣（8月）でトマト、ほうれんそうを中心に親元就農予定の6名が、秋派遣（10月）では果樹、畜産の法人へ雇用就農予定の3名が学んだ。

農業普及課は指導農業士等と派遣学習の受入農家の選定・調整、農大への報告を行った。派遣初日には県、受入農家、学生、保護者が一堂に会した出発式を行い、地域全体で次代を担う若手農業者の育成に向けた情報共有を図った。また、派遣学習中は農大担当者と一緒に受入農家を訪問し、学習状況の確認や学習記録に関するアドバイスを行った。学生は明るく、元気に学習しており、受入農家の評価も高かった。

今後は、市・JAと連携し、卒業後の円滑な就農へ向けて支援していく。



【学生、受入農家との状況確認】

■夏秋トマト サイドビニールの自動昇降機に関する現地研修会

「飛騨夏秋トマトスマート農業協議会」では、国の「データ駆動型農業の実践体制づくり支援事業」を活用し、夏秋トマトにおけるスマート農業技術の導入にむけて実証事業に取り組んでいる。参加生産者のうち8戸がハウス内気温を制御することを目的とし、サイドビニールの自動昇降機を導入し、秋季の保温による着色促進と結露軽減による品質向上実証に取り組んでいる。

10月15日、高山市下切地区生産者において、本年度の実証内容や機器の機能を説明する現地研修会（協議会主催）が開催された。多数の生産者が参加し、興味があることが伺えた。

農業普及課からは、ハウス内温湿度の計測結果からサイドビニール開閉の効果について伝達するとともに、自動昇降機の作動実演を実施した。



【サイドビニール自動昇降機の機能について説明】

■スマート農業 若菜会現地研修会を開催

10月20日、岐阜県中山間農業研究所において、飛騨野菜出荷組合ほうれんそう部会若菜会が現地研修会を開催した。若菜会は、ほうれんそうの若い担い手で組織された任意団体で、高収量、高品質、省力化を目指して、例年様々な研修会を開催している。今年度は若菜会が実証農家として取り組む国の「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト」の最終年度であり、スマート農業への興味も高まっていることから、スマート農業機器・機械の展示・実演会を開催した。

当日は中山間農業研究所職員からスマート農業機器の説明を聞いたのち、操縦体験を行った。また、中山間農業研究所にある軟弱野菜調製機や自動遮光技術を視察し、疑問点を積極的に質問していた。

農業普及課では、引き続き若菜会の活動について、関係機関と連携して支援していく。



【ラジコン草刈機を
操縦する生産者】

■果樹 高山市果実組合で「スマート農業現地検討会」を開催

10月28日、高山市果実組合で「スマート農業」をテーマにした現地検討会が開催された。当日は、メーカー3社と農業普及課、JAと生産者13名が集まり、県のスマート農業機器貸出事業を活用し、アシストスーツの装着やリモコン式草刈機の操縦体験を行った。

生産者からは、腕上げを補助するアシストスーツについて、「本体はかなり軽く、ブドウ管理作業でも楽になると思う」や「リングやモモの摘果作業でも使用できないだろうか」といった声があった。持上げを補助するアシストスーツでは、「収穫コンテナを運ぶ作業が腰や腕に負担になるため、利用できれば楽になると思う」といった声が多くあった。また、ロボット草刈機が好評で、「これまでは管理作業の合間に草刈を行っていたが、草刈をしつつ、管理作業ができるのは良い」といった声があった。しかし、導入となると「価格の面で導入は難しい」という声も多く聞かれた。

今後も農業普及課では、関係機関と連携し、生産者の意向を確認して、補助事業の活用を検討し、支援を行っていく。



【アシストスーツを装着体験する生産者】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■飛騨市 第3回美味しいお米養成講座を開催

飛騨市は、「美味しいお米養成講座」の第3回を10月21日に古川町のJAひだ吉城営農センター、26日に神岡町の神岡町公民館で開催した。「美味しいお米養成講座」は、市内の水稻生産者を対象に食味の向上を目的に開催されている研修会で、3回目となる今回は、2会場で58名の水稻生産者が参加した。

農業普及課では、JAひだとともに講師を務め、美味しいお米づくりのための土づくりについて講演を行った。参加者からは、わかりやすい内容で参考になったとの意見のほか、地域の食味コンクールにもぜひ参加してみたいとの声が多く聞かれた。飛騨市の「美味しいお米養成講座」は今回で終了となるが、農業普及課では、「飛騨こしひかり」のブランド力強化のため、更なる食味の向上に向けて普及活動を継続していく。



【土づくりについて講演】